

ケースメソッド授業からみたセクシュアリティに関する 女子学生の関心の推移

—— 2000-2008年度における学生の問題意識を中心として ——

藤 原 直 子*

A change of the interests about gender issues of women students
—— A case study of the class of gender case method ——

Naoko FUJIWARA

はじめに

高等教育機関において女性学・ジェンダー関連科目が開講されはじめて約20年が経つ。国立女性教育会館調査のデータに基づけば、2007年度における開講状況は、4年制大学では476大学、3726科目開講されており、女子大学においては70大学、940科目開講されている¹⁾。女性学・ジェンダー関連科目は、各大学において教養科目や専門科目としてカリキュラム上位置づいている。いまや大学で学ぶ教養としてジェンダー研究が制度化された状況にあると言える。とりわけ、女子大学のほぼ9割（データ上）の大学でそれらの科目が開講されており、各女子大学が女性学・ジェンダーをめぐる「知」の獲得を重点化している状況がうかがえる。筆者の勤務する相山女学園大学においても、全学部（5学部・学生数約5300名）で約60科目開講されている。所属する人間関係学部においては、2002年度よりライフスタイルに関連する科目を専門科目として位置づけ、講義や演習などを含め約20科目開講している。

このような高等教育におけるジェンダー教育の現状を考えていくうえで、現代社会におけるジェンダー状況の変化を見過ごすことはできない。社会変化と同様に、ジェンダー教育の授業内容や方法にも変化が見られるであろう。これらの授業を受講する学生たちは、学修するなかでどのような知識を獲得しているのだろうか、また受講生のジェンダー意識にどのような影響を与えているのだろうか。

以上のような課題を探究するための一つの作業として、本稿では筆者の担当する（後述の）ケースメソッド授業において、学生たち自身が研究発表してきた資料をもとに、問題関心の推移を考察することを目的とする。その作業をとおして、学生の知的関心の一端を浮かび上げたいと思う。これまで筆者が担当してきた授業において、ジェンダーに関連した学生の関心をキーワードで表せば、恋愛、結婚、男女の友情、女性の就労、セクシュアリティなどである。

本稿では、近年の社会的状況の変化が著しいセクシュアリティに関するテーマ、とりわけセクシュアル・マイノリティとされる同性愛と性同一性障害をテーマとした学生の研究発表を取り上げることにする。まずは、ケースメソッドの授業形態・方法について説明し、次に、学生

*人間関係学科 准教授

の研究発表資料を年次ごとにまとめた表を文末に提示する。多量のデータではあるが、学生の問題関心を見るうえでも興味深い資料と思われる。それらをふまえ、ケースメソッドの授業からみたジェンダーやセクシュアリティに関する学生の関心の推移について考察していくことにする。

1. 担当するケースメソッドの授業形態・授業方法

本稿で注目する演習形式の「ケースメソッド」は専門科目に位置づけられ、対象学年は3、4年生、授業期間は半期である。筆者は毎年度平均2クラス開講し、受講生は1クラス約20名である²⁾。ケースメソッドという科目は、「少人数による開講を前提とし、人間関係に関わる具体的な事例、現象を研究対象とし、グループ・ディスカッションを通して、さまざまな問題、事例を討議、分析、省察しながら、人間関係の解明や技法を学ぶことを目的」とした授業である。また、各自が得た知識や技法を基礎として、人間関係に対する問題の立て方、解決策の提案、自己表現を養うことを学習目標としている授業である。

担当するケースメソッドでは、人間関係とジェンダー・セクシュアリティに関連する具体的な例・現象を対象に研究・討論することをとおして、ジェンダー化された自己を問い、個々人の自己生成の意味を考えていくことを授業のねらいとしている。実際の授業は、以下のように進めている。あらかじめ課題を設定するのではなく、受講生たちのジェンダーやセクシュアリティに関する関心をもとに自由に研究課題を設定するという形をとっている。受講生たちは、それまで履修した講義や演習をふまえた問題意識をもっており、学びのレディネスを少なからず形成していると考えられる。ちなみに、筆者の担当するジェンダー関連の講義科目は2000～2001年度は教養科目「教育」と専門科目「心身問題と教育」での一部分、2002年度から現在に至るまで専門科目「ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ、Ⅱ」である。ケースメソッド受講生の大半が「ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ、Ⅱ」を履修しているのも、それらの授業内容から関心が促されている可能性は低くはないであろうが、ひとまず日常的に関心をもったジェンダーやセクシュアリティに関する問題意識を自由に設定させている。

ケースメソッドの授業では、初回から2回ほどで各自の問題関心の発表を行い、関心テーマの近い学生でグループを編成する（約5名）。その後、グループ内でのディスカッションを通して問題意識を共有し（授業回数1回）、それぞれが調査研究を行い、A4資料6枚程度にまとめることを課している。各グループは文献やインターネットで情報収集し、アンケート調査やインタビュー調査を行ったりして、発表資料としてまとめている。半期間の授業では約8回の研究発表の時間を設けている。

授業方法としては、授業1回につき、1グループの発表を行い、グループの中から司会進行役を立て、発表約30分、ディスカッション約50分、最後にグループが授業で暫定的に得た「答え」を発表するという授業の流れで進めている。筆者は、コーディネーターの役割を担っている。

各グループの研究発表は、文末に付した表2のとおり、グループ内の学生が共有した問題意識にもとに、自分たちで調べた結果を分析しまとめ、最後に「問題提起」として全体でディスカッションする内容を提示するという形式を取っている。各グループが具体的な課題を提起し、議論することで、ジェンダー、セクシュアリティをめぐる諸現象についての知識を獲得し、各自のジェンダー意識の省察、また諸課題への解決策を見出すことを授業の目的として挙げている。

2, セクシュアル・マイノリティをテーマとした学生の研究発表資料

以上のような形で展開しているケースメソッドで、学生たちはどのような問題関心をもち課題に取り組んでいるのか。前述したように、社会のジェンダー状況は変化し続けており、それとともに学生自身のリアリティも変化しているように思われる。とりわけ、近年のセクシュアル・マイノリティをめぐる社会的状況の変化は著しく、2000年度以降から2008年度現在までの授業においても、学生の関心も徐々に高くなっていることを筆者自身も感じている。それらの変化にともなって、学生がどのように関心を掘り下げているのか、自分自身にどのように引きつけて現実の問題を解決するために思考しているのか、学生のジェンダー、セクシュアリティをめぐる諸問題への理解の深まりについて、文末の表2に提示したこれまでの研究資料内容をもとにして次節で分析していく。

3, 発表内容・問題提起内容にみる関心の推移

各年度でグループ数が異なるのは、男女の友情など他のテーマのグループが多かったときやディバートを取り入れた年度もあったためである。しかしながら、セクシュアル・マイノリティをテーマとするグループが毎年度編成されることから、それらのテーマへ学生の関心の高さがうかがえる。そこで、学生の関心の推移をみていくために、発表内容と問題提起内容をもとに以下のように表にまとめ分析を試みた。

表1は、研究発表資料にみられる発表内容、問題提起内容と、ごくわずかな例にすぎないが、セクシュアル・マイノリティをテーマとしたメディア報道や制度面とをあわせ、年度進行にしたがって表したものである。

表中にある社会的状況に関する内容は同性婚をめぐる動きと性同一性障害に関する法制度のごく一部、メディア報道についても同様に、セクシュアル・マリノリティをテーマとしたテレビ番組を一部載せたのみにとどまっている。メディア報道や制度面の変遷も別途詳しく見ていく必要があるが、稿を別にして論じたい。挙げた例に関しては、講義において教材として使用したものを提示している。

また、学生たちが研究発表資料をまとめるうえで参考にする可能性の高い、大学図書館のセクシュアル・マリノリティに関する蔵書と新聞記事データベース（聞蔵Ⅱ：朝日新聞オンライン記事データベース）の各年に発行された著書やデータベース・ヒット数を示した。最近では、学生が資料をまとめる際にインターネットから情報を得ている可能性がより高いと思われる。学生の研究発表資料には参考URLを提示してあるが、その点については本稿ではとくに注目しないことにする。

そして、表2で示した実際の発表内容と問題提起について、以下のような段階に区分した。

性同一性障害と同性愛に関する定義、婚姻制度、法制度、これまでの歴史的状況をまとめたものをレベル1、社会的偏見や当事者をめぐる社会的状況に関する考察をレベル2、当事者たちの人間関係における諸問題や当事者である場合も含め自分たちの関わり方についてなど当事者性をめぐる人間関係に関する考察をレベル3、以上をふまえた解決策の提案をレベル4とした。ただし、解決策の提案はケースメソッドでのディスカッションをふまえて授業全体で検討する場合が多いので発表内容に組み入れていない場合もある。

さらに、発表内容を研究方法別に以下の3つに区分した。文献やインターネットを用いた事例の考察、アンケート調査による考察、インタビュー調査による考察である。問題提起については、問いに共通するテーマをキーワード化して示してある。

表1 発表内容・問題提起内容の推移

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008.11月まで	
著書・テレビ放映・社会的状況の例	吉永みち子「性同一性障害」映画「ボーイズ・トクライ」	ドラマ「3年B組金八先生」の登場人物映画「ハッシュェ!」	NNNドキュメント02「カミングアウト女から男へ」にんげんゆうゆう「性同一性障害」	クローズアップ現代「性同一性障害」成立、ベルギーで同性婚法が成立	福祉ネットワーク「性同一性障害」同一性障害特例法「性同一性障害特例法」施行	尾辻かな子「カミングアウト」テレメンタリー-2005「からだは女、ココロは男」映画「メゾン・ド・ヒミコ」スペイン、カナダで同性婚法が成立	歌手・中村中「友達の詩」杉山文野「ダブルハッピーネス」	ハートをつなごう「性同一性障害」性愛」「LGBT」ドラマ「ラスト・フレンズ」		
学内蔵書数／累計	7	4/11	10/21	12/33	6/39	5/44	9/53	8/61	4/65	
メディア報道データベース・ヒット数／累計	149	112/261	145/406	226/632	239/871	172/1043	174/1217	167/1384	144/1528	
発表内容	レベル1 レベル2 レベル3 レベル4 文献調査 アンケート インタビュー	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
問題提起内容	意識の問い直し	社会的対応策	意識の問い直し	制度に関する考察	意識の問い直し	制度に関する考察	友人からのカミングアウト(男女別)	当事者とのつきあい	社会的 positioning の考察	
	イメージの考察	自分が当事者	身近な人が当事者だった	友人からのカミングアウト(男女別)	制度に関する考察	友人からのカミングアウト	友人からのカミングアウト(男女別)	友人からのカミングアウト	制度に関する考察	
	社会的対応策	当事者へのサポート	友人からのカミングアウト(男女別)	きょうだいかのからカミングアウト	自分たちの感情の持ち方	恋人からのカミングアウト	恋人からのカミングアウト	当事者からの恋愛相談	友人からのカミングアウト	
		恋人が当事者だった	家族からのカミングアウト	恋人が当事者だった	恋人が当事者だった	きょうだいかのからカミングアウト	同性からの告白	自分が当事者でかつ、相手の受容度別のカミングアウト	自分が当事者でかつ、相手の受容度別のカミングアウト	
		友人からのカミングアウト	当事者からの恋愛相談	友人からのカミングアウト	友人からのカミングアウト	友人と恋人との対応の違い	街中での反応を考察	当事者の診断前の治療開始についての事例考察		

レベル1：定義・制度・歴史のまとめ

レベル2：社会的状況に関する考察

レベル3：当事者性に関連させた人間関係の考察

レベル4：解決策の提案 *2003年度はディベートでの授業を展開したため、2006年度は男女の友情をテーマに発表したグループが多かったためデータが少なくなっている。

(1) 発表内容に関する推移

表1に示されるように、年度進行と社会的変化やメディアの影響にともない、レベル1からレベル3も含む発表内容となっていることがわかる。レベル1では、セクシュアル・マリノリティをめぐる定義や制度などに関してこれまで履修した講義などをふまえ、文献やインターネットで調べたものをまとめる作業を通して基本的知識を習得し、それらを共有して議論するという傾向がみられた。2000年度はレベル1であるが、2001年度以降はレベル3の当事者性をふまえた人間関係の考察まで関心が高まっている。とくに、2001年は性同一性障害者という設定の中学生を人気女優が演じるドラマが放映され、性同一性障害に対する社会の注目も多くなり、メディアで数多く取り上げられた年でもある。そのドラマやメディアの影響を大きく受け、学生の性同一性障害への関心が高まったとも推察できる。

また2002年以降、セクシュアル・マイノリティ当事者のカミングアウトが報道されたり、NHKや民放のドキュメンタリー番組が放送されたりするなど、セクシュアル・マリノリティに関するメディア報道の量は2000年以前に比べると格段に増加した。さらに、2003年の性同一性障害者特例法（「性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律」）の成立にともない、メディア報道によって社会的認知度も高くなった状況がある。筆者の講義形式の授業においても、以前の内容に加え、それらの情報や番組を教材として扱うことも増えてきた。このように授業で提案する情報も増え、さらに授業外での情報をキャッチする機会も多くなったことで、より関心の高まりをもたらしたと考えられる。

学生の発表内容の推移をみていくと、文献だけでなく、アンケート調査やインタビュー調査を通して、より具体的な事象と事例を扱うことが多くなってきている。アンケート調査では、セクシュアル・マリノリティに対する社会的偏見がどこから生じるのか、同世代の学生あるいは年代別にどのようなイメージをもっているのか、それはどのような理由からか、といった社会的状況に関する考察を行い、そのうえで、当事者からカミングアウトされたらどう対応するか、自分が当事者であればどのように行動するか、といった当事者性をふまえた人間関係の具体的事例について調査する傾向へと推移している。さらに、アンケート調査の内容では、より立場性をふまえた具体的問いとなっている。例えば、カミングアウトされる相手を男女別、関係別（友人、恋人、親、きょうだい）に想定した問いを立て、より身近な問題として考察しようとする姿勢がうかがえるようになってきている。

インタビュー調査をととした発表内容では、当事者にアクセスして、ライフヒストリーや日常生活で直面する問題や、他者との関わりなど、よりリアルな声を聞き、自分たちは何をなすべきかという問いへと発展させる内容に年々変化している。2000年のインタビュー対象者に関しては、授業担当者である筆者からの紹介という形で調査を行ったが、2003年以降は学生自身の人脈をとおして行っている。おそらく、学生たちの身近に当事者が存在するという状況へと変化してきていると思われる。そのことによって、調査内容も文献からでも得られるような聞き取りにとどまらず、恋愛観や将来展望、そして自分たちに何ができるか、どのように当事者に接すればよいのか、などより具体的かつ実践的な内容へと関心の持ち方が推移していると思われる。

(2) 問題提起の内容に関する推移

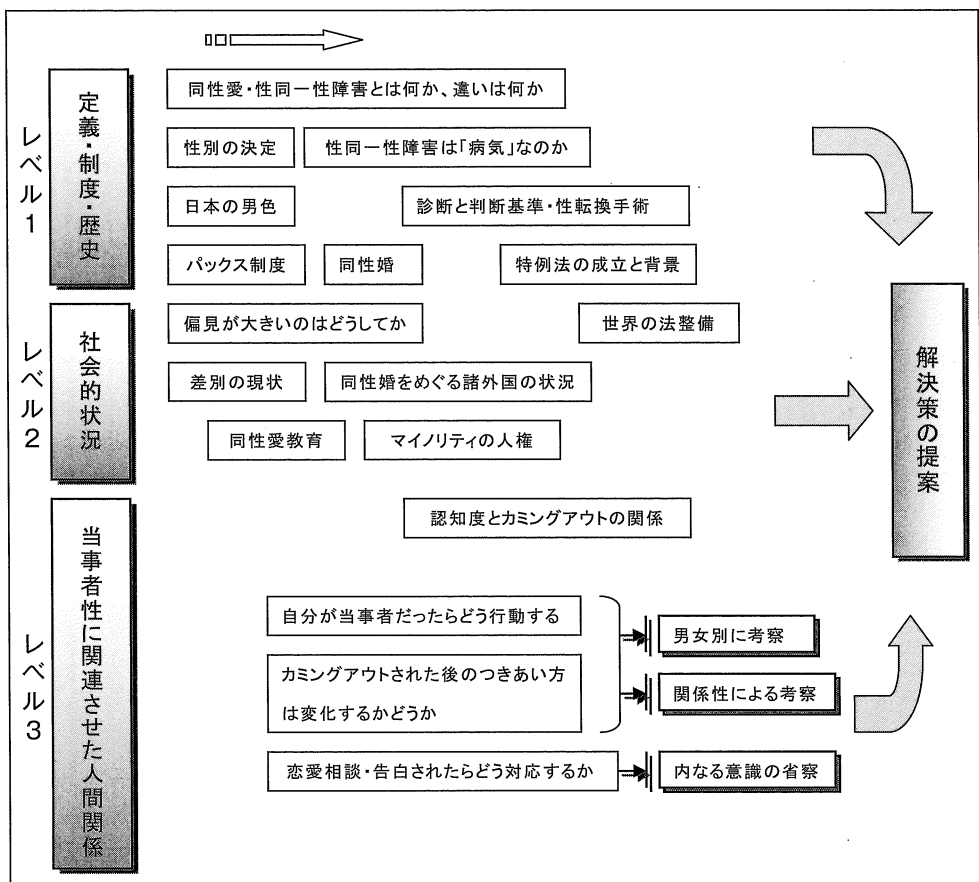
発表内容の推移と同様、表1に示すとおり、問題提起の内容に関しても年度進行にともない、より多くの現実的で具体的な状況を設定した問いが多くなっている。2000、2001年は、セクシ

ユアル・マリノリティに対する偏見をなくすにはどうしたらよいか、日本で偏見なく「受け入れる」状況にするは今後どうしていけばよいかという問題提起に見られるように、自分たちの意識を問い直し、社会全体の状況変化を考えるような内容が見られる。2002年以降では、自分が当事者であったらカミングアウトできるか、友人からカミングアウトされたらどのように対応するか、身近な当事者に対してどのようなサポートをできるか、というようにより身近な人間関係の問題としてとらえ、立場性をふまえた問いへと変化している。

また、具体的事象の内容も変化している。身近な人からのカミングアウトという設定から、友人、知人、きょうだい、家族、その男女別など関係性の違いへと推移している。当事者からの恋愛相談を受けたらどのように対応するか、同性から告白されたらどうするか、などセクシュアル・マリノリティに関する関心の持ち方が、これまでの社会的状況や制度といったマクロレベルでの考察と自分たちの個人的日常生活や人間関係というミクロレベルでの考察への関心が高まっている。さらに、近年の傾向としては、セクシュアル・マリノリティの社会的認知度の高まり、学生が得ることができている情報量の増大によって、性同一性障害当事者の「治療」行為に関する考察を行うなど、学生の関心の広がりや深みは増しているように思われる。

ジェンダー、セクシュアリティをめぐる諸問題を自分の身近な問題としてとらえ、自身のジ

図1 発表内容と問題提起にみる関心の推移



エンダー意識を問うという担当ケースメソッドのねらい、そして、個々人が思う自身の生・性の在り方が何者にも抑圧されることなく尊重され生きていける社会の実現というジェンダー教育のねらいの一つにてらせば、社会的状況の変化やメディアの影響も大きいですが、この9年間に於いて学生たちの知的関心、学習効果は上がっていると言えるであろう。

今回注目した発表内容と問題提起にみる学生の関心の広がりについては、図1のように示される。

おわりに ～暫定的な結論～

これまで見てきたように、セクシュアリティとりわけセクシュアル・マリノリティに関する学生の問題関心は、2000年当初の定義や社会的状況というマクロレベルでの考察という関心から、徐々に、当事者性をふまえた個人的日常生活での人間関係といったミクロレベルでの考察という関心へと推移している。法制度の確立やメディア報道の増大などセクシュアル・マリノリティをめぐる社会的状況の変化は、同じ社会に生きる個々の学生の知的関心を喚起し、学習レディネスも変化させている。そのことによって、自分たちの身近で現実的な問いとして省察することへとつながっている。

ジェンダーやセクシュアリティに関する教育は、教育者・学習者がともに生・性をめぐる差別や偏見の解消のために知を高め、社会で変容する主体を形成することもねらいの一つである。その意味において、2000年～2008年という期間にみられた学生の関心の推移からは、ねらいの達成にむけてより前進していると言えるのではないだろうか。ただ、本稿では学生の研究発表資料に基づく考察のため、実際の学生の意識変容など学習効果を明らかにすることはできなかったが、その点については今後詳細に見ていく必要がある。また、学生のジェンダーやセクシュアリティをめぐる関心テーマは広範囲にわたっており、各テーマや全体をとおして、多角的に分析する必要があるだろう。さらに、ケースメソッドという形式でジェンダーや、セクシュアリティに関して学ぶこと、すなわち調査分析し、各自の「経験」や声を聞きながら理解を深めていくというペダゴジーの視点から考察することも重要な課題である。

今後も社会的状況の変化、そこに生きる学生のリアリティや経験を学びの出発点とし、彼女らの問題関心の推移をふまえながら、筆者自身の授業内容・授業方法も工夫していきたいと思う。そして、性の平等に向けて社会を変革する批判的主体を育成するための教育の構築も今後の課題としたい。

注

- 1) 国立女性教育会館「女性学・ジェンダー論関連科目データベース」を参照。アンケート調査およびwebでの調査に基づいているので、回答しない場合も考えると実際の開講数はデータ数より多いと思われる。
- 2) 2000年度～2008年度までに22クラス、受講生計418名を担当した。1クラス約20名でディスカッションするには多い人数ではあるが、紙で作った三角柱の名札を各自机の前におき、意見表示などに利用している。また授業内で全員に発言の機会が与えられるようにしている。

表 2

開講年度	テーマ	内容	問題提起
2000	あいまいなセクシュアリティ—バイ・セクシュアル—	<ul style="list-style-type: none"> ・バイセクシュアルであると性自認する人たちの声 ・バイセクシュアルとは ・バイセクシュアルにおける親密さ ・両性愛度 ・バイセクシュアルの見られ方（レズビアンからの批判） 	<p>○バイセクシュアルにおける性行為とは何か</p> <p>○バイセクシュアルについてどう思いますか</p>
2000	同性愛 社会から見られるイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・同性愛とは ・同性愛はかつて異常視されていた ・国際法から見た同性愛者の人権について ・欧米のレズビアンの歴史 	○同性愛者に対する偏見をなくすには
2000	異性愛 社会から見られるイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・異性愛とは 	○異性愛について問い直す
2000	発表することの意味	<ul style="list-style-type: none"> ・前回のレポートについての反省点 ・自分の立場に置き換えてみる ・（レズビアンである）Aさんの話 	○前回の発表を経て、新たなインタビューを基に同性愛の当事者と傍観者について問い直す
2001	同性愛	<ul style="list-style-type: none"> ・性同一性障害の症状 ・同性愛者の現状 ・同性愛者だからこそ見えてくる新しい関係性 ・PACSについて 	<p>○身近に同性愛者がいたら、応援（肯定）できますか、その理由は何か</p> <p>○自分が同性愛者だったらカムアウトできますか</p>
2001	性とは？ —からだの性と心の性—	<ul style="list-style-type: none"> ・性同一性障害とは何か ・性別はどのように決定されるか ・性同一性障害におけるジェンダー ・性同一性障害の事例（文献） 	○男女の違い、性の決定は何でなされるのか
2001	同性愛について	<ul style="list-style-type: none"> ・同性愛について ・パックス制度 ・同性愛の婚姻（オランダ） ・日本の男色の歴史 ・日本における同性愛と、その社会的背景 ・同性愛者（レズビアン）へのインタビュー 	○同性愛者が日本で認められるには、これからどうしていいかわかるか。 何かしていくべきだろうか

2001	かゆい所をもう一度 —ケースを振り返って—	<ul style="list-style-type: none"> ・各回発表のまとめと再討論 ・ジェンダー①-a (教育の場面にいおいて) ・ジェンダー② (女性の就労について) ・同性愛 (同性愛者の社会的変容へ向けて) ・性同一性障害 (男女の差) ・ジェンダー①-b (生活の中でのジェンダー) ・結婚観、出産について 	<p>○女であることで何か言われるのが嫌なのはなぜか</p> <p>○同性といる方がいいのはなぜか</p> <p>○男女の友情は成立するか</p> <p>○あなたは、子どもを持ったとき仕事を続けますか</p> <p>○同性愛者について、「男性同士は気持ち悪いが女性同士はまあまあ許せる」と感じるのはなぜか</p> <p>○みんな「別にいいんじゃない」と言うわりには自分の彼氏がゲイだったり、自分の女友達から好きといわれたら「ちょっとひく」と言うのはなぜか</p> <p>○性同一性障害は「病氣」か</p> <p>○あなたはその人がどちらの性に属しているかをどこで見分けますか</p>
2002	同性愛	<ul style="list-style-type: none"> ・同性愛とは ・もし彼氏が同性と浮気をしたら、あなたは どうしますか ・バイセクシュアルについて ・日本における同性愛結婚 ・同性愛教育 <ul style="list-style-type: none"> ①日本の教育 ②アメリカの教育 	<p>○「カミングアウト」についてどう思いますか</p>
2002	同性愛について	<ul style="list-style-type: none"> ・同性愛の定義 ・司法的な扱い ・現在に至るまでの国家レベルの迫害 ・同性愛と性同一障害の違い ・同性愛差別の資料 ・事例 (文献) 	<p>○現在同性愛者が置かれている状況を知るとともに、実際に、個人的に同性愛をどう思うかを考える</p> <p>○友人にレズビアンだとカミングアウトされたら、付き合い方がかわるのか</p>
2002	性同一性障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・性同一性障害の定義 ・医学的な治療 ・抱えている問題 ・様々な事例 (文献・インターネット) ・お父さんのための性同一性障害講座 	<p>○多くの事例から、性同一性障害について聞いて直す</p>

2002	性同一性障害について考える	<ul style="list-style-type: none"> ・性同一性障害の定義 ・社会的差別について ・性転換手術について ・事例（文献） 	<p>○もし、自分にとって身近な人（①～④）が性同一性障害だったらどうするか</p> <p>①恋人（彼氏、彼女）または、好きな人</p> <p>②友人（男友達、女友達、先輩、後輩）</p> <p>③身内（兄弟姉妹、親戚、自分の子ども）</p> <p>④知人（近所の人、同級生、バイト先の人）</p> <p>○「女である」という意識をどのように作りに上げてきたか</p>
2002	あなたは人間（ひと）のどんなところに惹かれますか	<ul style="list-style-type: none"> ・同性愛について ①同性愛の定義 ②イメージに関するアンケートから見えてきたこと ③同性愛の現状 ④同性愛に対する偏見とはどこから来ているのか ・ネガティブなイメージを持たれやすい恋愛のカタチや行為 ①行為の具体例 ②ネガティブなイメージを持たれやすい恋愛のカタチに対する偏見と疑問 ③一夫多妻制と一夫一妻制 ・あなたは人間（ひと）のどんなところに惹かれますか 	<p>○男性の友人から自分はゲイであるとカミングアウトされたらどうか</p> <p>○女性の友人から自分はレズビアンだとカミングアウトされたらどうか</p> <p>○同性愛者の恋愛相談を受けた時の自分は</p> <p>○話を聞んだけど、実際に目にした時のギャップは</p> <p>○彼氏が同性と浮気をしていたら</p>
2003	性同一性障害 GID について	<ul style="list-style-type: none"> ・性同一性障害の悩み、苦労 ・カミングアウト ・対応策 解決策 	<p>○あなたは性もジェンダーも女です。また異性愛者です</p> <p>1. 付き合い始めて1ヶ月の恋人から、「自分はいわゆる女の体で生まれてきた、ジェンダーが男の性同一性障害者だ」とカミングアウトされました。見た目は男ですが手術はまだしてないといっています。あなたならどうしますか。</p> <p>2. 今まで親友と思っていたAさん（性別：女）から自分が認識しているジェンダーは男だとカミングアウトされ、なおかつ、「あなたに恋愛感情を抱いている」と告白されました。友情関係を続けるためにあなたならどうしますか。</p> <p>3. 自分の兄から「自分は性同一性障害だ」とカミングアウトされました。あなたならその兄にどういう態度を取りますか。</p>

2003	同性愛をどう考えるか	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーに関する用語 ・同性愛について ・異性愛者でない女性たちのアンケート（文献） ・インタビュー ・同性愛カップル結婚 	<p>○同性愛者からカミングアウトされたらその後の付き合い方に変化があるか（同性の友人からの場合、異性の友人からの場合、兄弟・姉妹からの場合、子どもからの場合、自分に対して好意を持たれた場合）</p> <p>○同性愛者の結婚制度が日本にあった方がいいか、否か</p>
2004	性同一性障害の基本的知識	<ul style="list-style-type: none"> ・性同一性障害についての用語説明 ・診断と判断基準 ・性転換手術 ・Q & A（当事者のインタビューネットを利用した質問と回答） ・ブルーボーイ事件 	<p>○性同一性障害の「障害」という表現に疑問を感じないか</p> <p>○どのようなことから自分の性を判断しているか</p> <p>○メディアなどでMTFはとりあげられるのにFTMはあまりとりあげられないのはなぜか</p>
2004	好きってなに？	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の意味 ・（友情や愛情に関しての）格言 ・アンケート調査からの意見（女性でヘテロ・セクシュアルではない人たちに対するアンケート調査文献より） 	<p>○「好き」という感情はどのようなものだと考えますか</p> <p>○友情と愛情の違いはどこにあると考えますか</p>
2004	GID	<ul style="list-style-type: none"> ・性同一性障害とは ・タイと日本の社会の違い ・アンケートの結果報告、考察 ・インタビュー 	<p>○性同一性障害は病気だと位置づけられているが、病気と考えますか、個性だと考えますか</p> <p>○自分の恋人または好きな人がいたとして、本当はその人が別の性だったらどうしますか</p> <p>○同性婚は法的に認めるべきか</p>
2004	同性愛について	<ul style="list-style-type: none"> ・同性愛とは ・同性婚の現状と問題点 ・アンケート結果 	<p>○友人から同性愛者であることをカミングアウトされた場合、あなたは今までどおりその友人と友人関係を築くことができますか</p> <p>○日本での同性婚に賛成ですか、反対ですか。またその理由は</p>

2005	性同一性障害のカミングアウトについて	<ul style="list-style-type: none"> ・性同一性障害とは ・(FtMの方への) インタビュー ・アンケート 	<p>○あなたが一番仲の良い人を想像してください もしその人に性同一性障害だとカミングアウトされたらどうしますか。あなたは拒否しますか、それとも受け入れますか</p> <p>○男だと思って付き合っていた人から性同一性障害だとカミングアウトされたらどうしますか。あなたは付き合いますか、それとも別れることを考えますか</p> <p>○あなたの兄弟姉妹が性同一性障害だった場合、友人・恋人が性同一性障害だった場合とは違う感情を持つと思いますか</p>
2005	カミングアウト	<ul style="list-style-type: none"> ・性同一性障害について ・同性愛について ・社会での扱われ方 	<p>○性同一性障害、同性愛に対してどのようなイメージを持っていますか</p> <p>○もし友人や恋人（身内）から性同一性障害であるとカミングアウトされたら、その人との付き合い方は変わりますか。また、それはなぜですか</p> <p>○もし友人や恋人（身内）から同性愛者であるとカミングアウトされたら、その人との付き合い方は変わりますか。また、それはなぜですか</p> <p>○同性婚についてどう思いますか</p>
2006	性同一性障害に関する意識調査	<ul style="list-style-type: none"> ・性同一性障害の定義 ・アンケート集計結果、考察 	<p>○あなたは女友達に「性同一性障害」だとカミングアウトされたらどうしますか</p> <p>○あなたは男友達に「性同一性障害」だとカミングアウトされたらどうしますか</p>
2007	性同一性障害	<ul style="list-style-type: none"> ・性同一性障害の定義 ・日本の現状 ・社会との関係 ・性転換手術 ・(FtMの方への) インタビュー ・世界の性同一性障害に関する法整備 	<p>○あなたなら性同一性障害の当事者とのように付き合っていますか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カミングアウトされたら・・・どのように受け止めるか、付き合い方が変わるか ・恋愛相談をされたら・・・生物学的性にとらわれずに相談にのれるか、恋愛対象が自分に向いていたらどうするか
2007	同性愛	<ul style="list-style-type: none"> ・同性愛の定義 ・アンケート調査の考察 ・(レズビアンのカップルに対する) インタビュー 	<p>○街で同性愛カップルを見かけたら振り返りますか</p> <p>○同性の友人にカミングアウトされたらどうしますか</p>

2007	同性愛について	<ul style="list-style-type: none"> ・同性愛についての基礎知識 ①同性愛の基礎知識 ②同性愛は本能に反する行為？ ③ホモファビアについて ・事例（レズビアン3名への聞き取り） 	<ul style="list-style-type: none"> ○もし友人からカミングアウトされたら付き合い合い方が変わるか ○付き合っている人が同性愛だとカミングアウトしてきたら別れるか ○実際に同性から、付き合い合ってほしいと言われたらどう感じるか
2008	性同一性障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・性同一性障害とは ・性同一性障害に関する法律について ・性同一性障害の歴史 ・性同一性障害の認知度とカミングアウトについて ・インタビュー（FTMのAさん） 	<ul style="list-style-type: none"> ○「願望」と「性同一性障害」の違いを自分ならどう考えるか ○法について、もっと簡単に性別を変えられるように変えたほうが良いか ○もし自分が性同一性障害ではないか、と思ったとしてカミングアウトすることができるか。また、誰に話しか ○身体的に同性の友人に性同一性障害とカミングアウトされ、その上で告白されたらあなたはどうか ○性同一性障害と診断される前に自ら治療を始めてしまうことに関心しているか
2008	縛られた同性愛	<ul style="list-style-type: none"> ・同性愛とは ・同性愛のイメージ ・日本と諸外国の婚姻制度 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本でも同性婚を認めるように法律をつくるべきか
2008	同性愛 —カミングアウト—	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査 ・文献調査からみる当事者のカミングアウト ・インタビュー調査 (ゲイAさん、バイセクシュアルBさん) 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分がカミングアウトをする立場になって、以下の設定であなたはカミングアウトしますか 1-①親に対して 自分：レズビアン。両親にカミングアウトしようとする 両親：同性愛に対してマイナスイメージを持っている 1-②親に対して 自分：レズビアン。両親にカミングアウトしようとする 両親：同性愛に対してマイナスイメージを持っている 2-①友人に対して 自分：レズビアン。友人にカミングアウトしようとする 友人：同性愛に対してマイナスイメージを持っている 2-②友人に対して 自分：レズビアン。友人にカミングアウトしようとする 友人：同性愛に対してマイナスイメージを持っている

* 発表テーマ、発表内容、問題提起の表現については、研究発表資料のままであるがわかりやすいものには表現を加えた。